

2015年2月26日

愛媛大学医学部附属病院  
薬剤部 薬品情報管理室

## 経静脈栄養剤投与中の高血糖重篤化を回避

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。

今回は経静脈栄養剤治療中に血糖測定を定期的に行うことにより血糖高値が早期に分かり、インスリン注射を追加することによって、高血糖が重篤化して起こるケトアシドーシス等の急性合併症を回避できた事例を紹介します。

事例：中心静脈栄養(；TPN)投与中に**高血糖**が分かり、

**インスリンR注を追加してケトアシドーシスを回避**

患者：80代男性・糖尿病（食事療法）

臨床経過

TPN 投与日数	1 日目	2 日目	4 日目	5 日目	6 日目	7 日目	8 日目	...	13 日目
中心静脈栄養	1号	2号	→ 3号		→				
静脈血グルコース (mg/dL)			256						
簡易型血糖測定 ※(mg/dL)				246	297	297	232	...	129



病棟薬  
剤師：  
インス  
リン  
追加を  
提案

担当医：  
明日の  
採血で  
判断

R注  
開始

**高血糖**症状には口渇・多飲・多尿・体重減少を初期症状とし、血糖値 250mg/dL を超えてくると個人差はありますが、**全身倦怠感、意識障害、昏睡**といったケトアシドーシス症状を発症し、重症化すると死亡に至ることがあります。高齢者は口渇症状や全身倦怠感等の症状が分かりにくいのでご注意ください。



※簡易型血糖測定：末梢の毛細血管(動脈血)を測るため静脈血より若干高値になります。